

知っておきたい子どもの感染症とくすりの話

清水 博之

藤沢市民病院 臨床検査科

子どもは成長の過程で多くの感染症を経験します。発熱、咳、鼻水、のどの痛み、嘔吐や下痢などは日常診療でよくみられる症状であり、多くの保護者が不安を抱えながら対応しています。一方で、「抗菌薬を飲めば早く治るのか」「熱が高いほど重症なのか」「病院を受診するタイミングはいつなのか」など、感染症や薬に関する疑問を持つ方も少なくありません。

近年は新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、子どもたちを取り巻く感染症の状況が大きく変化しました。インフルエンザやRSウイルス感染症、手足口病、溶連菌感染症、百日咳などの流行パターンも変わり、以前とは異なる流行がみられるようになっていきます。また、抗菌薬が効きにくい細菌の増加が世界的な課題となっており、薬を必要な時に適切に使用することの重要性がこれまで以上に高まっています。

本講座では、小児感染症専門医の立場から、子どもによくみられる感染症について分かりやすく解説します。まず、ウイルスと細菌の違いや、感染症によって治療法が異なる理由を説明します。そのうえで、かぜ症候群、インフルエンザ、RSウイルス感染症、胃腸炎など身近な感染症を例に、どのような薬が使われるのかを紹介します。特に、抗菌薬が有効な病気とそうでない病気の違い、抗ウイルス薬の役割や限界について、日常生活に役立つ視点からお話します。

さらに、家庭での看病のポイント、脱水予防のための水分補給、受診を急ぐべき危険なサインについても解説します。感染症は子どもの成長とともに避けて通れないものですが、正しい知識を持つことで過度に恐れる必要はありません。本講座を通じて、感染症と薬に対する理解を深め、子どもたちの健やかな成長と安心した子育てにつながる機会となれば幸いです。

清水 博之（しみず ひろゆき）

藤沢市民病院 臨床検査科

【略歴】

【学歴】 2004年 京都府立医科大学卒業

【職歴】 2004年 京都市立病院 研修医

2007年 藤沢市民病院

2010年 東京医科大学病院

2013年 藤沢市民病院

2014年 横浜市立大学附属市民総合医療センター

2018年 藤沢市民病院臨床検査科部長

2022年 臨床検査科部長兼感染対策室長

【所属学会】 日本小児科学会、日本感染症学会、日本小児感染症学会、日本臨床検査医学会、日本検査血液学会、日本渡航医学会

【専門医等】 医学博士、小児科専門医・指導医、感染症専門医・指導医、小児感染症専門医、臨床検査専門医、国際渡航医学会認定医